

## 組織目標評価報告書（令和4年度）

部局長名： 自然生命科学研究支援センター

部局長名： 那須 保友

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p><b>①教育領域</b></p>	<p>目標に關連する 年度計画の審 査</p> <p><b>教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b></p>
<p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】・ゲノム・プロテオーム解析に関する技術・実技講習会 ・組換えDNA実験の教育訓練及び法定放射線業務従事者教育訓練の実施 【動物資源部門】 ・動物実験施設の利用者研修会の開催及び動物実験に關連するセミナーの実施 ・法定動物実験教育訓練講習会並びに動物実験初心者実技講習会の開催 【光・放射線情報解析部門】 ・法定放射線業務従事者教育訓練の実施と学部教育・大学院教育への関与 【分析計測・極低温部門】機器利用説明会・セミナー、機器利用訓練・資格試験の実施 ・分析例集/装置マニュアル/ビデオ等の作成と公開・対面またはリモートでの個別 分析相談/安全教育の受付 【設備・技術サポート推進室】・機器分析セミナー・技術講習会等の開催 【センター全体】センター各部門が協働して実施可能な教育プログラムの企画・立案を 行う ・「走査電子顕微鏡システム」更新に伴う、分析教育を企画する(ゲノム・分析計測) ・全学共通放射線業務従事者教育訓練の実施(ゲノム・光) ・共通分析装置講習会の実施(動物・光)</p>	<p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】・ゲノム・プロテオーム解析に関する技術・実技講習会3回実 施 ・組換えDNA実験の教育訓練(英語を含む)12回、再教育訓練3回の実施 【動物資源部門】・マウス・ラット初心者講習会を15回実施(75名参加) ・利用者研修会(鹿田)11回開催(270名参加)、教育訓練を17回実施(683名受講) 【光・放射線情報解析部門】 ・全学放射線業務従事者教育訓練の実施(新規日本語6回・英語5回、再教育eラーニング随 時) ・全学エックス線業務従事者教育訓練の実施(eラーニング)。 【分析計測・極低温部門】・機器利用説明会7機種で13回実施 ・分析例集/装置マニュアル/ビデオ等の作成と公開:3装置計3件 ・対面またはリモートでの個別分析相談/安全教育の受付:計65件 【設備・技術サポート推進室】・学外講師による分析装置説明(分析計測分野装置)9件 【センター全体】 一般教育科目や各学部の専門教育科目の関連科目の一部を担当し、多くの学生へ高度な分 析機器を利用した実体験的な教育、遺伝子組み換え実験の講義など教育の高度化と研究力 の向上に貢献した。以上、特に全学的に自然生命科学研究に関わる教育を行ったため達成 度を上げた。</p>
<p><b>②研究領域</b></p>	<p>目標に關連する 年度計画の審 査</p> <p><b>研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b></p>
<p>【設備技術サポート推進室を除く各部門】・教職員の研究成果を論文として公表する (各部門1編以上) ・教職員の研究成果を学会で発表する(各教員1回以上) ・教職員は外部研究資金獲得のための応募を行う(各教員1件以上) ・教職員は学内外における共同研究を推進する(各部門1件以上) 【センター全体】・センター各部門が協働して実施する共同研究の企画・立案を行う</p>	<p>各部門の実績を集計すると論文(総説を含む)11報、講演2件、学会発表19件、学内外の共同 研究30件、外部資金採択6件などとなり、目標を達成し、特筆すべき成果をあげていることか ら、達成度は昨年より上昇したと判断した。 個別部門と学外の共同研究では広島文化大学、広島大学、佐賀大学、近畿大学、京都大学、 県内企業などがある。 【センター全体】・部門と学外組織を横断した共同研究1件(光・放射線、分析計測、中性子 医療研究センター、HISOR、理研)</p>
<p><b>③社会貢献(診療を含む)領域</b></p>	<p>目標に關連する 年度計画の審 査</p> <p><b>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b></p>
<p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】・学外のプロテオーム受託サービスの実施(中国地 区国立大学間連携を含む) ・ゲノムプロテオーム解析に関する機器講習会・技術講習会の学外開放 ・全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会への参画 【動物資源部門】・動物実験関連領域の学会、協議会等の運営 ・臨床医教育の実施箇所として動物実験施設の活用(動物実験施設での開催支援) 動物実験技術講習会の開催又は開催支援並びにインターン実習の実施 【光・放射線情報解析部門】・臨床医の法定放射線教育訓練の実施 ・関連学会を通じて国の放射線関連法令策への協力・助言 【分析計測・極低温部門】・機器利用説明会・講習会・機器見学会などの学外開放 ・学外への依頼分析サービスの提供並びに研究基盤関連の協議会の運営・参画 【設備・技術サポート推進室】・産学官又は大学間連携行事・広報行事等への参画 【センター全体】・センター各部門が協働して実施する学外教育の企画・立案を行う</p>	<p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】・学外のプロテオーム受託サービスの実施(4件、278,600 円) ・共同利用機器2種の利用系4件・中国地区バイオネットワーク連絡会幹事校 ・全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会への参画 【動物資源部門】・動物実験関連領域の学会、協議会等の運営 ・マウスラット上級技術講習会の開催 ・専門学校生と他大学の学部生を受け入れてのインターン実習 【光・放射線情報解析部門】・臨床医の法定放射線教育訓練実施 ・関連学会を通じて国の放射線関連法令策への協力・助言 【分析計測・極低温部門】・学外依頼分析サービス(合計566件、約250万円) ・共用機器利用説明会の公開(8機種10回)、他大学、企業の訪問・見学(7件) 【設備・技術サポート推進室】・共有化ガイドラインセミナーを企画開催 センター全体で受託サービスが増加した。関連する団体において中心的な役割を果たして いるため、達成度を上げた。</p>
<p><b>④管理運営領域</b></p>	<p>目標に關連する 年度計画の審 査</p> <p><b>管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等</b></p>
<p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】・遺伝子実験施設の適切な維持管理を行い、法令遵 守に務める。・共同利用設備の整備と適切な維持管理に務める 【動物資源部門】 ・三つの動物実験施設の定期的な保守管理を行い、施設設備機能を維持する ・共同利用機器、ウェブを使用した施設利用及び動物実験管理システムを整備する 【光・放射線情報解析部門】 ・放射線施設の定期的な保守管理と機能維持と共同利用可能な機器の整備と利用 促進 【分析計測・極低温部門】 ・共同利用設備の維持運営、及び機器分析室の適切な安全衛生管理の実施・老朽 化への適切な対応と計画的な更新申請・学内液体窒素及び液体ヘリウム供給体制 の充実 【設備・技術サポート推進室】・学生マイスター育成制度の運用と適切な勤務管理 ・設備リユース・設備共同利用の仲介WEBシステムの適切な管理運営 【センター共通】・研究支援の教育・研究に対する貢献度についてIRを進めるため、年 度ごとに利用者の業績や利用実績を集計し、報告する</p>	<p>【センター共通】研究力の向上のため適切・迅速な管理運営に努めた。 【ゲノム・プロテオーム解析部門】 ・組換えDNA実験の安全管理と運営 【動物資源部門】 ・消防設備の更新と落雷による被害からの復旧 ・動物実験管理システムの改良による審査の迅速化 【光・放射線情報解析部門】 ・放射線安全管理(施設管理、臨時教育訓練、被ばく管理、線量管理、証明業務)の適切な 実施 【分析計測・極低温部門】 ・全17測定室の共用公開機器45機器およびエアコンなど設備の維持管理かつ安全な運営 ・定期自主検査・法定保安検査の実施 ・研究遂行に必要な液体窒素、入手困難だった液体ヘリウムの供給 【設備・技術サポート推進室】 ・学生マイスター育成制度の運用と適切な勤務管理 ・設備リユース・設備共同利用の仲介WEBシステムの適切な管理運営</p>
<p><b>⑤センター・機構等業務</b></p>	<p>目標に關連する 年度計画の審 査</p> <p><b>管理運営領域の目標の達成状況</b></p>
<p>【ゲノム・プロテオーム解析部門】 ・学内の組換えDNA実験コンプライアンスの徹底し、組換えDNA実験の申請・審査シ ステムを大幅に改訂し、コンプライアンスを徹底しつつ、申請者と審査員の負担軽減を はかる ・分析計測分野や新共用事業等との連携体制を強化し、共通機器の利用を促進 ・学内外のゲノム・プロテオーム解析機器利用のリモート化・スマート化推進 【動物資源部門】・学内の動物実験実施環境の整備及び点検の実施 【光・放射線情報解析部門】・全学放射線施設管理および従事者管理への支援 ・全学的な核燃料物質・国際規制物質、エックス線装置管理・運用への支援 【分析計測・極低温部門】・全学共同利用研究設備の管理・共用運用への支援 【設備・技術サポート推進室】・計画的・効率的な研究設備の整備支援 ・コアファンリテイポータルWEBサイト立ち上げなどで、コアファンリテイ構築を図る ・研究設備の共同利用促進のための情報発信、利用案内、利用相談 ・技術支援力強化を目的とする全学及び近隣大学等との連携 【センター共通】 ・各部門が協働し、センター全体としての教育・研究支援体制の構築と産学共同セ ンターとして役割を担う組織構築の企画立案を行う</p>	<p>【センター共通】 全部門で機器の共同利用化を推進し、利用研究室の増加に繋がった。 【ゲノム・プロテオーム解析部門】 ・組換えDNA実験計画申請330件の審査を実施、新Web申請システムを構築 ・学内プロテオーム受託サービス23件(約367万円)を実施 【動物資源部門】 ・動物実験計画書1019件の事前審査を実施 動物実験施設の外部検証を受験し、感染実験区域の飼育装置を増設 【光・放射線情報解析部門】 ・全学放射線業務従事者登録業務の支援(172件)、全学安全管理体制を構築運用 【分析計測・極低温部門】 ・学内依頼分析サービス利用:7項目合計258件 ・設備共用運用の結果、利用研究室(設備NW登録)が218件に増加(昨年度+22) 【設備・技術サポート推進室】・Webサイトを適宜更新 ・新学生マイスターを加え14名が10装置の利用を支援 ・機器のリユース・修理費用を支援</p>

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。